

# 地理的分野学習指導案

日時 平成28年11月15日(火)

展開学級 1年B組

授業者 北川 洋介

金坂 雅征

## 1 単元と主題 アフリカ州「12億人の巨大市場と豊かな天然資源をめぐるアフリカの社会構造」

### 2 単元と主題について

#### (1) 単元と主題について

人類発祥の地とされるアフリカは、北緯37度から南緯35度付近に位置し、国は54ヶ国を数える。人口は世界の約15%の12億人を占め、アジアに次ぐ人口爆発地域である。世界で一番人口の伸びが大きく40年後には今の約2倍の24億人に増えるとの予測もある。この人口規模は「巨大市場」となり、欧米諸国や中国、日本からの熱い視線を集めている。

さらに、アフリカ大陸では石油、天然ガス、石炭、鉄鉱石、金、ダイヤモンド、銅、精密機器製造には欠かせないコバルト、白金族などの希少金属などを産出する豊かな天然資源がある。たとえば、コバルトにいたっては世界の確認埋蔵量45%のコンゴ民主共和国、白金族確認埋蔵量95%の南アフリカ共和国などがある。このような「豊かな天然資源」をめぐり、欧米諸国や中国、日本など世界各国はこぞってアフリカに押し寄せ、投資を急いでいる。

以上のことからアフリカは「資本主義最後のフロンティア」と呼ばれ、先進国各国が「12億人の巨大市場」と「豊かな天然資源」の獲得を目指して、こぞってアフリカに進出している状況がある。アフリカ大陸に積極的に進出している中国は2006年11月に北京で「第3回中国アフリカ協力フォーラム」を開催し、アフリカ48ヶ国の首脳が顔を揃えた。この会議では50億ドル規模のアフリカ開発基金を設立し、有力な中国企業の対アフリカ投資とアフリカ諸国への技術力の向上に利用することとした「北京行動計画」が策定された。一部では中国によるアフリカの巨大市場と豊富な資源の囲い込みだとの見方もあるが、中国は政府主導でアフリカ諸国独立戦争以来、有形無形の援助を行ってきており、清算が取れず欧米諸国が撤退していく鉱産開発や携帯電話などのインフラ整備にも、中国の豊富な人材力と資金によって次々と事業に参加し、信頼を得ている証とも言える。今では、アフリカ諸国は中国をビッグブラザーと呼び、中国に大きな期待を寄せている。我が国、日本は中国を意識し巻き返しを図るべく2016年8月、第6回アフリカ開発会議(TICAD6)で今後3年間で民間資金を含めて総額300億ドル規模でアフリカに投資し、産業の基礎を支える人材や感染症専門家の育成をはじめ約1000万人の人づくりに取り組む考えも打ち出した。

一方で先進国がこぞってアフリカに投資し開発する影の部分として「新しい植民地主義」の横行がある。タンザニアの港町ダルエスサラームでは、毎朝鉱産資源を一杯に積んだトラックが長蛇の列をつくる。海外の大資本がザンビア、マラウイ、コンゴなどの内陸国で採掘したレアメタルをアフリカ大陸から持ち出すためである。その側ではダルエスサラームの子どもたちが裸で遊び、貧しい生活を強いられている。このような状況は大航海時代、欧米列強諸国がアフリカを植民地にし、奴隷として働き盛りの若者や天然資源をアフリカから多く持ち出した時代に見立てて「新しい植民地主義」と批判の声があがっている。

アフリカの人々の間からは、「資源」を自分たちの手に取りもどそうという動きも少しずつ起こり始めており、アフリカ人が自らアフリカの鉱産を開発する動きも出てきている。先進国のような技術力がない中ではあるが、経済のグローバル化がアフリカ人をたくましく成長させている。それは、携帯電話の普及である。今までは先進国の資源メジャーに取引価格は一方的に支配されてきたが、最新の情報が瞬時に届くため、アフリカ人は世界の金のレートをチェックして最も高く買い取ってくれるところに売ったり、交渉したりするようにな

り、利益をあげるようになってきている。

このようなアフリカ州の状況から単元の主題を「12億人の巨大市場と豊かな天然資源をめぐるアフリカの社会構造」と設定した。ここでは、アフリカ州を1つのまとまりとして捉えると共に、アフリカ州の地域的特色を明らかにするために、「貿易ゲーム」を用いて、アフリカの豊かな天然資源が先進国に安く買い叩かれ、先進国が持つ技術力によって先進国はより豊かさを手にしていく状況や、資源しかなく偏った産業構造であるモノカルチャー経済の問題点を体験的に学習することで、生徒から遠い所にあると思われるアフリカ州を他人事ではなく、先進国の日本に住み、アフリカ原産のレアメタルを使ったスマートフォンを手にする自分たちも遠からずアフリカ経済に関与していることに気づかせたい。なお、学習指導要領解説「州規模で地域的特色を明らかにする」ことと、そのためには「各州の地域的特色を明らかにする必要から」「取り上げる地理的事象の特色を的確に把握する観点から州を越えた地域を設定」することから、アフリカ州を意識したチーム、先進国が多い北アメリカ、東アジアを意識したチームで貿易ゲームは構成する。

また、貿易ゲームをより深めるため、事前にアフリカ州の基礎的・基本的な知識としてアフリカの地理的特色や歴史・文化、モノカルチャー経済などの社会構造を学習する。その際は、過去と現在といった時間的経過を考慮した学習（例えば、携帯電話を持つマサイ族やルワンダが悲劇の国から奇跡の国として目覚ましい発展を遂げているといった学習）を行い、単にアフリカ州が貧しい、遅れている、「資源の呪い」で戦争ばかりしているという一方的な地域的特色を学習しないようにする。単元全体の学習を通して「12億人の巨大市場と豊かな天然資源をめぐるアフリカの社会構造」を理解させ、「地理的な考え方」の基礎を培いたい。（地理的な考え方については学習指導要領解説より引用）

## （2）本校の研究主題との関わり

本校の研究主題「望ましい生活習慣の確立と基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指す指導と実践」を受けて社会科としては「学習意欲を喚起し、主体的な授業参画を図るための授業実践」を研究主題としている。そこで、（1）学習課題設定の工夫としては、主題である「12億人の巨大市場と豊かな天然資源をめぐる欲望渦巻くアフリカの社会構造」を最終的に理解させるために、「なぜ、先進国はアフリカ州にこそって進出するのか？」という「なぜ」型の単元を貫く学習課題を設定する。（2）学習形態の工夫としては、4人班を用いる。これは、何も学習をやらないフリーライダーを生み出さないと同時に知識を持っている生徒が一方的に教えるといったことがないようにすることで教育の機会均等を図るためである。これは調べ学習や貿易ゲームの際に行う。（3）視聴覚的な教材・資料の活用については、アフリカ州を理解するため、ジャンプしているマサイ族の様子や携帯電話を片手に話すマサイ族の様子を写すことでより学習意欲が高まると考える。

## 3 単元の目標

- （1）アフリカ州について興味・関心を持ち、学習課題に対して意欲的に取り組むことができる。  
（社会的事象への関心・意欲・態度）
- （2）アフリカ州の地域的特色について、資料から読み取ったことを説明したり、他者の発言等も参考にしたりする中で、多面的・多角的に考え、その地域的特色を適切にまとめ、表現することができる。  
（社会的な思考・判断・表現）
- （3）アフリカ州の地域的特色について資料から適切に読み取り、説明することができる。  
（資料活用の技能）
- （4）アフリカ州の自然環境、歴史的背景、生活・文化、経済の動向などを通して地域的特色を大観し、理解することができる。  
（社会的事象についての知識・理解）

4 指導計画（4時間扱い、本時3／4時間）

時配	学習活動	形態	評価規準
1	★アフリカ州をながめる		
<p><b>単元を貫く学習課題：なぜ、先進国はこぞってアフリカに進出するのか？</b></p> <p>この学習課題を通して、主題である「12億人の巨大市場と豊かな天然資源をめぐるアフリカの社会構造」を最終的に理解させる。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>パイロット（文具メーカー）の写真、中国（第3回中国アフリカ協力フォーラム）や日本（TICAD6）の新聞を示し、なぜ、先進国はこぞってアフリカに進出するのか？を予想させる。この予想に対する答えは4時間目の単元のまとめの際に自分の言葉で書く。</li> <li>州内の国や都市、地形、天然資源を白地図に書き込む。</li> <li>3都市の雨温図を読み取る。（カイロ・キサングニ、ケープタウン）</li> <li>アフリカ州の人口規模が12億人であり、魅力的な市場となっていることを資料から読み取る。</li> <li>貿易統計（輸出）を読み取り、わかることをワークシートに書く。</li> </ul>	一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフリカの自然環境、豊富な天然資源を理解している。 【知識・理解】（白地図）</li> <li>アフリカ州の貿易統計から、モノカルチャー経済を読み取ることができる。 【技能】（ワークシート）</li> </ul>
2	<p>★アフリカ州の歴史的背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題「なぜ、アフリカ州の国々の輸出は第一次産品が多いのか」について予想し、調べ、まとめる。</li> <li>マサイ族の携帯電話の普及、「ルワンダの悲劇から奇跡」と呼ばれる急速な成長などの時間的経過によるアフリカ州の発展を資料から読み取る。</li> </ul>	一斉 個別 4人班	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で学習したモノカルチャー経済の問題点について考え、説明することができる。 【思考】（発表・ワークシート）</li> <li>アフリカ州の歴史的背景、生活・文化、経済の動向などの資料を通して、アフリカ州の特色を理解することができる。 【知識・理解】（ノート）</li> </ul>
3 本時	<p>★アフリカ州の経済基盤～新しい植民地主義～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貿易ゲームをする</li> <li>ゲームをふりかえる。</li> <li>グループ間で利潤の格差が生じた要因について考える。</li> </ul>	一斉 4人班	<ul style="list-style-type: none"> <li>「貿易ゲーム」に意欲的に参加している。【関心・意欲・態度】（観察）</li> <li>「定規、はさみ、鉛筆、コンパス」が技術力を示し、「紙」が資源を示していることに気づくことができる。 【思考・判断・表現】（ワークシート）</li> </ul>
4	<p>★アフリカ州のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「貿易ゲーム」をふりかえり、豊かな天然資源が先進国に安く買い叩かれ、先進国が持つ技術力によって先進国はより豊かさを手にしていく状況や、資源しかなく偏った産業構造であるモノカルチャー経済の問題を考える。</li> </ul>	一斉 4人班 一斉 個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く学習課題に対して、アフリカ州で学んだ知識を活かして、自分なりにまとめ、表現することができる。【思考・判断・表現】（発表・ノート）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く学習課題に対する自分の予想とアフリカ州の学習を通して得られた知識をもとに学習課題に対する答えを書く。</li> <li>・日本がアフリカに関わっているネリカ米、モーリシャスのたこ等、日本とアフリカの関わりを資料から読み取る。</li> </ul>		
--	--	--	--

5 本時の指導

(1) 目標

- ・「貿易ゲーム」に意欲的に参加しようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・「定規、はさみ、鉛筆、コンパス」が技術力を示し、「紙」が資源を示していることに気づくことができる  
【思考・判断・表現】

(2) 展開

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価
授業前	1、前時までの復習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が始まる5分前に社会科係が復習問題を4問、黒板に書かせる。</li> </ul>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p><b>単元を貫く学習課題：なぜ、先進国はこぞってアフリカに進出するのか？</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れがわかるようにホワイトボードに書いておく。その際、主題に迫るための単元を貫く学習課題「なぜ、先進国はこぞってアフリカに進出するのか？」を書いておく。</li> </ul>
	<p>2、貿易ゲームの説明を行う</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ゲームの目的（授業のねらいではない）：紙を使って製品をつくり、マーケットで売って、できるだけ早く沢山のお金を稼ぐこと。</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班名（実在しない国名）がわかるようにネームプレートを置く。</li> <li>・道具等について班などから質問が出ても、グループで相談して解決することを促す。</li> </ul>
10分	<p>3、4人班になり、一斉に開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進国（日本や欧米諸国）役の班2つ ㊦かしわに国、チーバくん国</li> <li>・先進国（積極的にアフリカに進出している中国、インド）役の班1つ ㊦かそりーぬ国、</li> <li>・中程度の工業国レベルの役の班1つ ㊦ふなっしー国</li> <li>・アフリカ州（モノカルチャー経済）役の班3つ ㊦いすみん国、京成パンダ国、ぴーにゃっつ国</li> <li>・アフリカ州（最貧国ジンバブエ）役の班2つ ㊦うなりくん国、とみちゃん国</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム開始後10分を経過しても班同士で取引が始まらない場合は、さり気なく促す。</li> <li>・マーケットにはT2の教師が担当する。ゲーム序盤は全体として甘めにチェックを行い中盤からは先進国には甘いチェックをし、発展途上国には厳しいチェックを行う。</li> <li>・T2は、全体の様子を見ながら、学習支援を行う。</li> </ul> <p>○「貿易ゲーム」に意欲的に参加しようとしている。【関心・意欲・態度】（観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを引くのは原則10分ごと無作為ではあるが、生産される商品が偏っている場合はカード②を教師から提示するといったマーケットの状況も考慮する。</li> </ul>
10分	<p>4、ゲームの流れを変える（1回目）</p> <p>カードを無作為に選び、選んだカードのことが起きる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードは7種類用意してあるが、実際に本時で扱うのは3つまでとし、残り4つも含めて、次のふりかえりの授業の際に補足説明する。</li> </ul>

10分	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>カード①「製品の価格下落」</p> <p>カード②「製品のチェック厳格化」</p> <p>カード③「途上国への技術援助」</p> <p>カード④「紙を追加（新資源発見）」</p> <p>カード⑤「新製品の規格発表」</p> <p>カード⑥「環境保全に関する規制」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の最中に他のグループで作業しその分の賃金をもらうといった「移住労働者」、道具や紙がなくて困っている班に対して道具を無償あるいは有償で提供するといった「国際協力」などの貿易上の事象が発生したら、黒板にその事象を書く。説明はふりかえりの授業の際におこなう。</li> </ul>
10分	5、ゲームの流れを変える（2回目）	○「定規、はさみ、鉛筆、コンパス」が技術力を示し、「紙」が資源を示していることに気づくことができる【思考・判断・表現】（ワークシート）
5分	6、ゲームの流れを変える（3回目）  7、ふりかえりシートでふりかえりを行う。	